

1 梨の生育状況

梨の果実肥大は、6月12日の無作為調査の結果では、「幸水」の横径が34.6mmと前年、平年並みとなっています(前年値35.6mm 平年値35.4mm)。

黒星病の発生は、昨年同時期と比較して、「新高」を除く品種で多い状況です。現在梅雨時期であること、これから「幸水」の果実に感染しやすい時期となること等から、今後の発生防止対策の実施が極めて肝要です。(詳細は下記参照)。

虫害は、ハダニ類の発生時期が平年に比べ遅い傾向です。

2 黒星病の発生状況

①果実、葉等の発病状況

6月13日の発病状況調査結果では、発病果そう率17.2%と、昨年同時期と比較して多くなっています。(H29年7.2%、H28年6.3%、H27年45.8%)。

特に、「幸水」、「豊水」、「あきづき」では6月初旬から果そう葉(葉柄)で発病が急増しています。

表 H30年 黒星病発生状況(調査日:6月13日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率						
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉 (%)		新梢葉 (%)		
					葉	葉柄	葉	葉柄	枝
幸水	68	19.7	1.4	1.3	3.5	11.6	0.8	3.4	0.1
豊水	27	19.2	0.6	0.7	2.9	13.0	0.8	3.2	0.1
新高	14	4.0	0.1	0.1	1.7	1.6	0.0	0.6	0.0
あきづき	4	7.0	0.0	0.0	2.0	6.0	0.0	0.5	0.0
合計・平均	113	17.2	1.0	1.0	3.1	10.5	0.7	2.9	0.1

【参考：昨年同時期の発生状況】

表 黒星病発生状況(調査日:6月15日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率						
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉 (%)		新梢葉 (%)		
					葉	葉柄	葉	葉柄	枝
幸水	68	5.9	1.8	0.4	0.8	3.3	0.1	0.1	0.0
豊水	27	14.7	3.2	0.9	2.1	9.4	0.4	0.2	0.1
新高	14	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
あきづき	4	3.0	1.5	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0
合計・平均	113	7.2	1.9	0.4	1.0	4.3	0.1	0.1	0.0

②気象データによる感染危険度(千葉梨防除ナビより)

4月10日～6月13日の間で感染危険度の発生日数は、17回とH28年に比べかなり多い状況でした。

特に4～5月(開花期～幼果期)の発生回数、指数の高さが5月初旬からの「幸水」などでの発病の増加要因と考えられます。

<黒星病感染危険度の発生日数および指数>

	4月	5月	6月	計
H30年	7 (4.1)	9 (5.1)	1 (2.0)	17 (4.5)
H29年	3 (1.6)	10 (2.4)	4 (2.5)	17 (2.3)
H28年	4 (3.0)	3 (5.0)	2 (2.0)	9 (3.4)

※ () 数値は、感染危険度指数(0～9までの10段階評価)

☆直近では、6月12日が感染危険日となり、潜伏期間(15日)を経て6月27日頃に果実や葉に発病する可能性があります(特に、5月初旬から発生が多い園地では注意が必要です!!)

3 これからの防除について

☆防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛けましょう

回数	散布月日	薬剤名と濃度	収穫基準 (収穫前日数)	散布量	主な対象病害虫	防除 実施日
1 1	6月13日 ～15日	オキシラン水和剤 600倍 サムコルフロアブル 10 5,000倍	3日 前日	300 リットル	黒星病、輪紋病 シクイムシ類、ハマキムシ類 ケムシ類	
1 2	6月20日 ～22日	<u>ユニックス顆粒 水和剤(特別防除)</u> 2,000倍 ダニゲッター フロアブル 2,000倍	21日 前日	400 リットル	黒星病 ハダニ類 ニセハダニ	
<p>●黒星病対策強化のため、特別防除薬剤として、<u>ユニックス顆粒水和剤</u>を加用しますので、<u>薬剤の準備をお願いします。</u> ○殺ダニ剤の効果を十分発揮させるため、<u>事前に草刈りを実施して下さい。</u></p>						
1 3	6月27日～29日 (満開76～78日)	ストロビードライフロアブル 3,000倍 (Qo I 剤) オーソサイド水和剤80 1,000倍	前日 3日	300 リットル	黒星病、輪紋病	
1 4	7月7日～9日 (満開 86～88日)	オンリーワンフロアブル 2,000倍 (DMI 剤) ベルクートフロアブル 1,500倍 アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍	前日 14日 前日	300 リットル	黒星病、輪紋病 シクイムシ類、カメムシ類 ケムシ類	
1 5	7月17日～19日 (満開 96～98日)	ネクスターフロアブル 1,500倍 (SDHI 剤) オーソサイド水和剤 80 1,000倍	前日 3日	300 リットル	黒星病、輪紋病	

【重要項目】

- 第13～15回目の防除は、「幸水」の果実が黒星病に最も感染しやすい時期の防除となります。効果の高い防除を実践するため、必ず散布月日を守って下さい。
- 現在現れている病斑(新たな感染源)を放置すると、罹病果実の多発の原因になりますので、見つけ次第園地外で適切に処分してください。
- 短果枝群、側枝の基部では葉の展葉にともない薬剤透過が劣り、感染・発病を助長させる原因となっていますので、摘果作業と並行して新梢管理(芽かき、新梢の切除)を実施して下さい。

4 コンフューザーNの追加設置について

ナシヒメシクイは「幸水」の収穫期間中にも発生しますが、農薬防除対応が困難なため、収穫前までにコンフューザーNを追加設置し、対策の強化を図って下さい。

	内 容	注意事項
設置本数	50本/10a	<ul style="list-style-type: none"> ●ほ場の外周は有効成分濃度が薄くなるため、多めに設置する。 ●傾斜地では斜面上側を多めに設置する。 ●周辺にウメやモモがある場合には、これらを含めて設置する。
設置時期	7月下旬から8月初旬 (「幸水」の収穫前までに)	
設置間隔	約4.5m間隔(1樹あたり1～2本程度)	

5 補正摘果の基準について

- ◆「幸水」の補正摘果基準値(果実横径)の目安(満開日が4月12日の場合)

玉サイズ	6月21日	6月24日	6月27日	6月30日	7月3日	7月6日
44玉基準	34.6mm	36.5mm	38.7mm	41.1mm	43.7mm	46.5mm

- ◆「豊水」の補正摘果基準値(果実横径)の目安(満開日が4月8日の場合)

玉サイズ	7月10日	7月13日	7月16日	7月19日	7月22日	7月25日
40玉基準	47.9mm	50.4mm	53.0mm	55.6mm	58.1mm	60.5mm

※その他の玉サイズに必要な時期別の果実横径を知りたい方は、資料を配布しますので選果場にお越し下さい。